

青い空・白い雲

「新春号」 2014 年度 2号

長野県手をつなぐ育成会ニュース
2015年1月発行
発行者 長野県手をつなぐ育成会
会長 中村 彰
380-0928
長野市若里7-1-7
長野県社会福祉総合センター5F
TEL 026-227-6811
Fax 026-227-6836

平成26年第51回県大会 安曇野三郷公民館

平成26年7月5日（土）

参加者総数357名（内来賓13名 表彰者6名 講師1名）

全国手をつなぐ育成会運営統括 田中 正博 氏の講演会と討論会の報告

62年間の歴史ある「社会福祉法人 全日本手をつなぐ育成会」の事業停止の経緯と新設「全国手をつなぐ育成会連合会」の設立経緯についての説明があり、我々育成会会員の高齢化が進んでいる中、同じく子供の高齢化も進み親亡き後の子供が人間らしく生きられるよう各法律の整備も含め、残された子供たちが最良の老後を実現するためのグループホーム等の整備が重要課題となっているとの報告がありました。

午後は中村彰会長、田中氏、小池浩子氏（山の子学園）、山ノ内里冴氏（安曇養護学校保護者）による討論会を開催し、グループホームの現状や今後の課題、養護学校の肥大化、入所施設の高齢知的障害者の実態など現状報告と情報交換が活発になされ各世代間のそれぞれの問題点を確認することが出来今後の育成会活動の柱として認識を持つことができました。

県大会の大会アピール

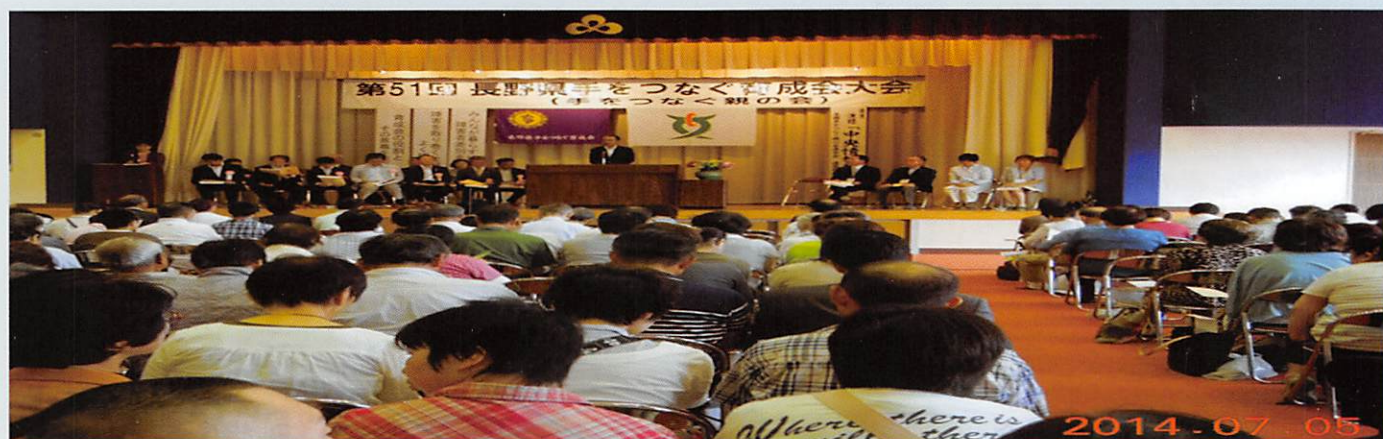
- 1 「高齢知的障害者」の豊かな老後の実現のために今できることを考え実行していきます。
- 2 「共生社会」実現のため当事者の思いだけに留まらず社会の一員として自ら「共生社会」のけん引役として地域の中の「差別解消」に向かいあいます。
- 3 障害者福祉制度の後退を招かないよう、より一層の活動を推進していきます。

報告責任者 安曇野市手をつなぐ育成会 内山 秋男

「安曇野市手をつなぐ育成会」の皆様のご協力を心より感謝申し上げます。

なお、青い空白い雲1号に掲載予定でした県大会の記事が2号になりました事を関係者の皆様にこの場を借りましてお詫び申し上げます。

事務局



☆☆☆☆☆☆☆☆全国大会表彰☆☆☆☆☆☆☆☆

日時 平成 26 年 9 月 27 日～28 日

島根県立産業交流会館（くにびきメッセ）

「 神の国島根から発信！つながり、支えあう地域づくり 」

全国手をつなぐ育成会連合会としての記念すべき第1回の大会が島根県松江市で開催されました。長野県からは4名の参加があり、竹内一夫氏の全国表彰を見守りました。

★★★★★★★★全国表彰者のご紹介★★★★★★★★



竹内 一夫 氏

平成 7 年～12 年

飯田市手をつなぐ育成会会長

南信地区協議会会長

平成 12 年～17 年

長野県知的障害者育成会会長

全日本手をつなぐ育成会評議員

長年の育成会活動に誠心誠意努められ育成会を支えて下さいました。

今後も後人へのご指導・ご鞭撻をよろしくお願いします。

お知らせ その1 刈間事務局長退任

平成 14 年 4 月 1 日から事務局長として長野県手をつなぐ育成会の舵をとってこられた刈間靖事務局長が昨年度を最後に退任されました。法人と任意団体の分離の困難期を支え「長野県手をつなぐ育成会」の活動を推進してこられました。長年の局長職に心から感謝申し上げます。

なお、後任事務局長に「長野市手をつなぐ育成会」の塚田なおみが務めます。右も左もわからない未熟者ですが皆様のご協力をお願いしながら、会員の皆様と歩んでいきたいと思っています。

お知らせ その2 中村会長が知事に紹介した本

・・・「いのちの重みを感じながら」・・・高齢知的障害者支援の目指すべき姿事例集

「知的障がい者福祉協会」発行の全国的にも評価の高い事例集です。この本の編集には育成会からも中村会長をはじめ故大槻副会長、刈間氏、宮本氏と県育成会の事務局も協力しています。ご希望の方には販売もしています。是非手に取ってご覧いただきたい一冊です。

価格は 700 円 県事務局にお問い合わせ願います。026-227-6811

諏訪市総合福祉センター「いきいき元気館」

講演者 福岡 寿 日本相談支援専門員協会 副代表

平成 26 年度長野県手をつなぐ育成会研修会（中南信会場）に参加して

茅野市手をつなぐ育成会 戸川 榮司

福岡さんの講演での「ゆるやかな自己決定」という言葉に衝撃を受けました。自分の意思を十分に表現することができない知的障がい者の親として、これまで本人のためと思っていろいろな選択をしてきました。本人の意思を代弁していたつもりが、福岡さんから、親の都合で段取りしていたに過ぎないのではないかと投げかけはショックでしたが、思い当たることも多く反省しきりです。親や相談員が段取りするのではなく、本人の後をついていく、うまくいかなければやり直せばいいという姿勢が大切だと思いました。

本人が暮らし方を選択し、「地域に暮らし、日常的に外を出歩き、時々福祉サービスを受ける」ような生活ができるようにするには、地域全体が相互に支援できる体制を作る必要がありますが、その時に育成会が果たすべき役割があると感じました。

午後の部

パネルディスカッション

障害者が地域で安心して暮らせる共生社会を目指す

司会者

諏訪圏域障害者総合支援センター

(株)グローブ代表取締役

この街福祉会

育成会会長

福岡 寿 氏

茅野 進 氏

松井洋介 氏

井上 純一 氏

中村 彰 氏



「共生社会」を、障害者の生活レベルから見た、それぞれの立場から語り合っていました。まずは日常的に障害者の思いにより寄った支援が来ているのか？また障害特性故の「生きづらさ」への合理的配慮が場面場面で行われているのか「親の思い」だけが先行してはいないか「本人の思い」がどれだけ支援に活かされているのか、自問自答された参加者も多かったようです。

長野会場・諏訪会場の運営役員の皆様には大変お世話になりました

編集後記

事務局長の交代の初年度は「全日本手をつなぐ育成会」の法人格返上、新生「全国手をつなぐ育成会」の誕生という激震の年となりました。生き字引並みの刈間局長からの引き継ぎは伝聞方式で貴重な時間でした。伝統と歴史ある「育成会」の奥深さを知りました。各郡市会の活動を紐解けば胸が熱くなるような「親の思いに」突き当たり、今の福祉制度の礎の源を感じると共に活動の継承の重要性を認識しました。これからも皆様と共に歩んでいきたいと思ひます。最後に今年の広報誌の発行に手間取り時差の大きい記事内容となってしまったことをお詫びします。

研 修 会 報 告

東北信研修会

長野会場

平成 26 年 11 月 23 日

参加人数 123 名

長野市ふれあい福祉センター

講演講師 堀江 まゆみ 氏 白梅学園教授

11 月 23 日 長野市ふれあい福祉センターにて「共生社会を築くために」というテーマで堀江まゆみ先生の講演が行われました。実例に沿ってお話くださり笑いあり涙ありと、とても心に染みるものでした。

私はこの頃親亡き後の子供の心配と不安で一杯でした。この講演で前向きな気持ちと元気をいただきました。堀江氏のお話の中で次世代の事を考え小学生に読み聞かせなさっているとのこと。種を撒いていращやるとのこと、子どもは小さい時ほど素直に受け止め純粋である。大人になった時、障害の人達を理解し寄り添って欲しい願いです。私も声に出していくことはやろうと思います。自分でも小さなことですが、できることがあることに気づかせていただきました。この研修会には警察の方、弁護士の方も参加していただきました。障がい者の理解を求め、大きな力をいただけるきっかけになったのではないのでしょうか。長野市手をつなぐ育成会千野 京子

↑堀江氏が公演中に読み聞かせてくださり聴衆の涙を誘った「ほんとうにあった話だよ」の一説です。

午後の部

パネルディスカッション

「共生社会を築くために」

司会

中村 彰

会長

助言者

堀江 まゆみ

氏

長野県警察 警視

伊藤 聡志

氏

長野県警 少年課

割田美由紀

氏

長野県弁護士会 弁護士

山本 恭子

氏

塩尻市手をつなぐ親の会会長

岩谷 和則

氏

午後のパネルディスカッションでは育成会の企画としては初めての試み、長野県警の「生活安全部生活安全企画課理事官」の伊藤聡志警視と同課「少年サポートセンター係長」の割田美由紀氏の同席が叶いました。

それぞれの立場での状況報告や意見交換の場となり有意義なひと時になりました。堀江氏の講演の中にも共生社会を築く上で「障害者理解」を進めるキーマンが「警察官」「コンビニの定員さん」「バスの運転手さん」「ガソリンスタンドのお兄さん」など街中にいる人々であることから、特に「警察官」に対し、親の立場で願う「おまわりさん」への思いや、万が一警察のお世話になるようなことがあっても困らないように、またそのようなことが起きないような社会の実現にひとり一人が生活の中で何をどう示していったら良いのか、考えるよい機会になりました。

県内 3,000 人余の警察官が日々県民の安全安心のために働いてくださっています。「障害者」への理解への取り組みに関しては、今のところ個々の認識判断に委ねられる部分のようです。この研修会が今後へつながることを祈ります。